こども新聞
週刊かほピョンプレス
毎週日曜発行
2025 3/23
河北新報社 TEL.022-211-1111（月曜から金曜）

教訓を次の世代につなぐ

東日本大震災から14年

今年の3月11日で、東日本大震災が発生してから14年がたちました。皆さんが生まれる前に起きたこの出来事は、多くの人々にとって深く悲しい記憶として残っています。

時間がたつにつれて記憶や印象が薄れていくことを「風化」と言いますが、決して忘れてはいけないこともあります。震災は多くの命を奪いましたが、それと同時に私たちに大切な教訓も残しました。この教訓を忘れずに、次の世代に受け継いでいくことがとても重要です。

東北地方には、震災の教訓を伝えるための伝承施設がたくさんあります。例えば、震災当日、校舎の2階まで津波が押し寄せる中で、児童や教職員、住民ら320人が避難した仙台市荒浜小（若林区）は市の震災遺構として保存されています。ここでは地震発生から避難、津波の襲来、救助されるまでの経過を写真や映像で振り返り、災害への備えについて学べます。

また、震災の教訓を語り継ぐ人々を「語り部」と呼びます。あの日その地域で起きた出来事や教訓を伝えるために活動しています。一部には震災を経験していない語り部もいますが、重要なのは、一人一人が自分の言葉で震災の被害や教訓を伝えることです。

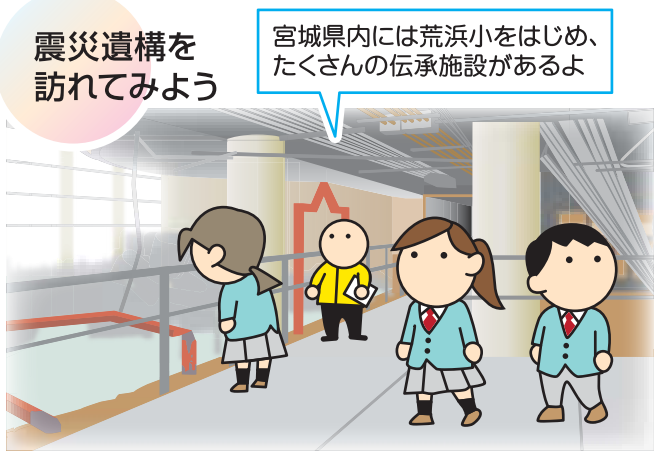
実際に経験していなくても、それを知ってどう感じたか、次の世代に何を伝えるべきか、しっかり考え、自分の言葉で誰かに伝えることで、命を守るための教訓は受け継がれていきます。

皆さんも、震災で家族を失った方の話を聞くことや、他の地域で起きた災害をテレビや新聞で知ることがあると思います。自分が生まれる前や離れた場所で起きた人ごととして捉えてはいけません。その出来事の教訓は何か、今自分にできることは何かを考えるきっかけにしてください。

（仙台市防災・減災アドバイザー　早坂政人）

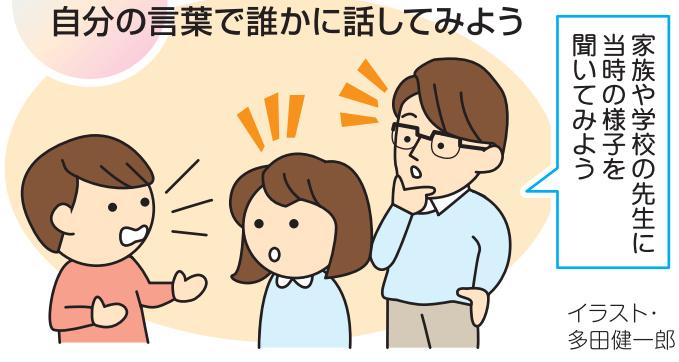
東日本大震災から14年
震災の教訓、自分事にしよう

震災遺構を訪れてみよう



語り部の話を聞いてみよう

身近な人の被災経験を聞き、自分の言葉で誰かに話してみよう



イラスト・多田健一郎

今週の注目ニュース

◇25日（火）　電気記念日

1878年のこの日、日本で初めて電灯がともりました。明治政府が設置した電信中央局の開局祝賀会が東京であり、アーク灯と呼ばれる電灯が会場を明るく照らしました。出席者から驚きの声が上がったそうです。

きょうの紙面

2面　ニコ☆プチ
3面　3分チャレンジ
4・5面　わが校わがまち　スクール通信
6面　くわしく学べる！　こども英語
7面　投稿特集
8面　子育て・教育相談コーナー